

Ⅱ わたしたちのくらしと環境^{かんきょう}

わたしたちのくらしは、毎日、たくさんの水やエネルギーを使うことで成り立っています。そして、それは環境^{かんきょう}にどのような影響^{えいきょう}を与えているのでしょうか。

わたしたちをとりまく身近な環境^{かんきょう}について、調べてみましょう。

1 わたしたちの身近な環境^{かんきょう}

(1) わたしたちのくらしと水

①水のはなし



出典：気象庁ホームページ

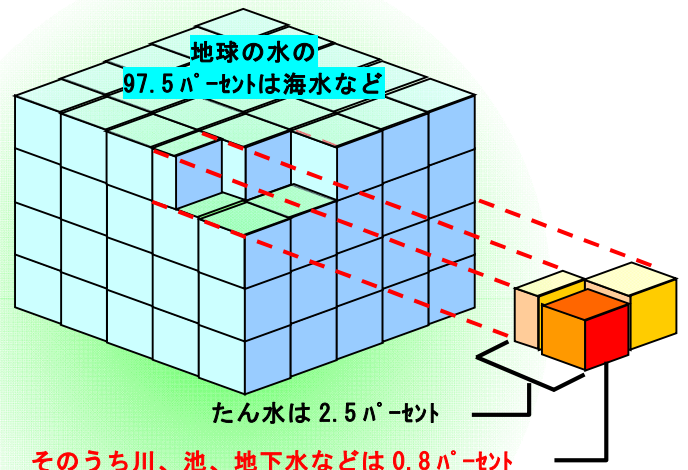
地球には、約 14 億立方キロメートルの水があります。しかし、そのうち約 97.5 パーセントは海の水です。草木を育てたり、飲んだりすることができる淡水^{たんすい}は残りの約 2.5 パーセントしかありません。

そして、この淡水^{たんすい}の約 70 パーセントは北極や南極の氷です。わたしたちが本当に使える水は、地球上の水のわずか 0.8 パーセントしかない貴重な水^{きちやう}なのです。

この貴重な水^{きちやう}を、わたしたち人間だけではなく地球に住むすべての生き物が分けあって使っています。

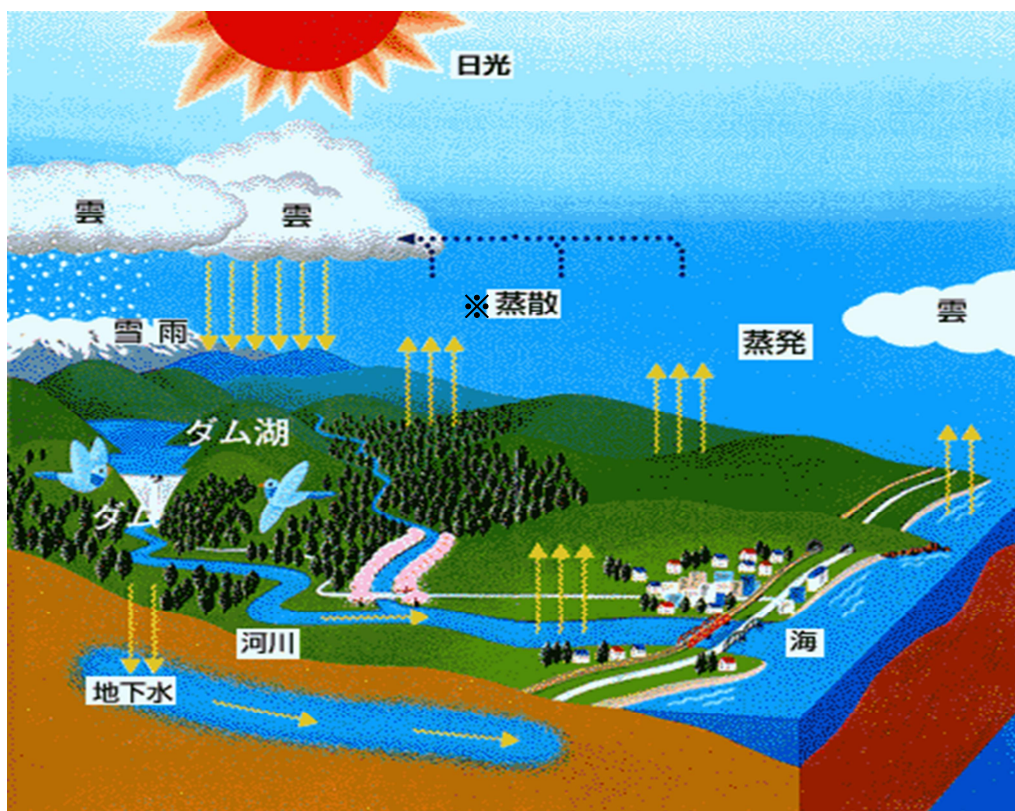
みなさんの中には、宇宙^{うちゅう}から見た青い地球をテレビや写真などで見たことがある人もいると思います。

なぜ、地球は青く見えるのでしょうか。それは地球にあるたくさんの水が、太陽の光を受けて青く輝^{かがや}いているからです。



わたしたちが、毎日、水を使っているのに、どうして水はなくならないのでしょうか。

それは水が絶えず循環して、ぐるぐる回っているからです。わたしたちが使った水は、下水処理場などできれいにされたあと、川や海に流れていきます。川や海に流れていった水は、太陽の熱で蒸発して水蒸気となります。水蒸気は冷やされて雲になり、雨となって地上へふりそそぎ、わたしたちのところへ再びもどってきます。



このように、わたしたちが使った水と使う水はつながっていて、地球の気候が安定した約 20 億年前から、絶え間なくこの水の循環は続いています。

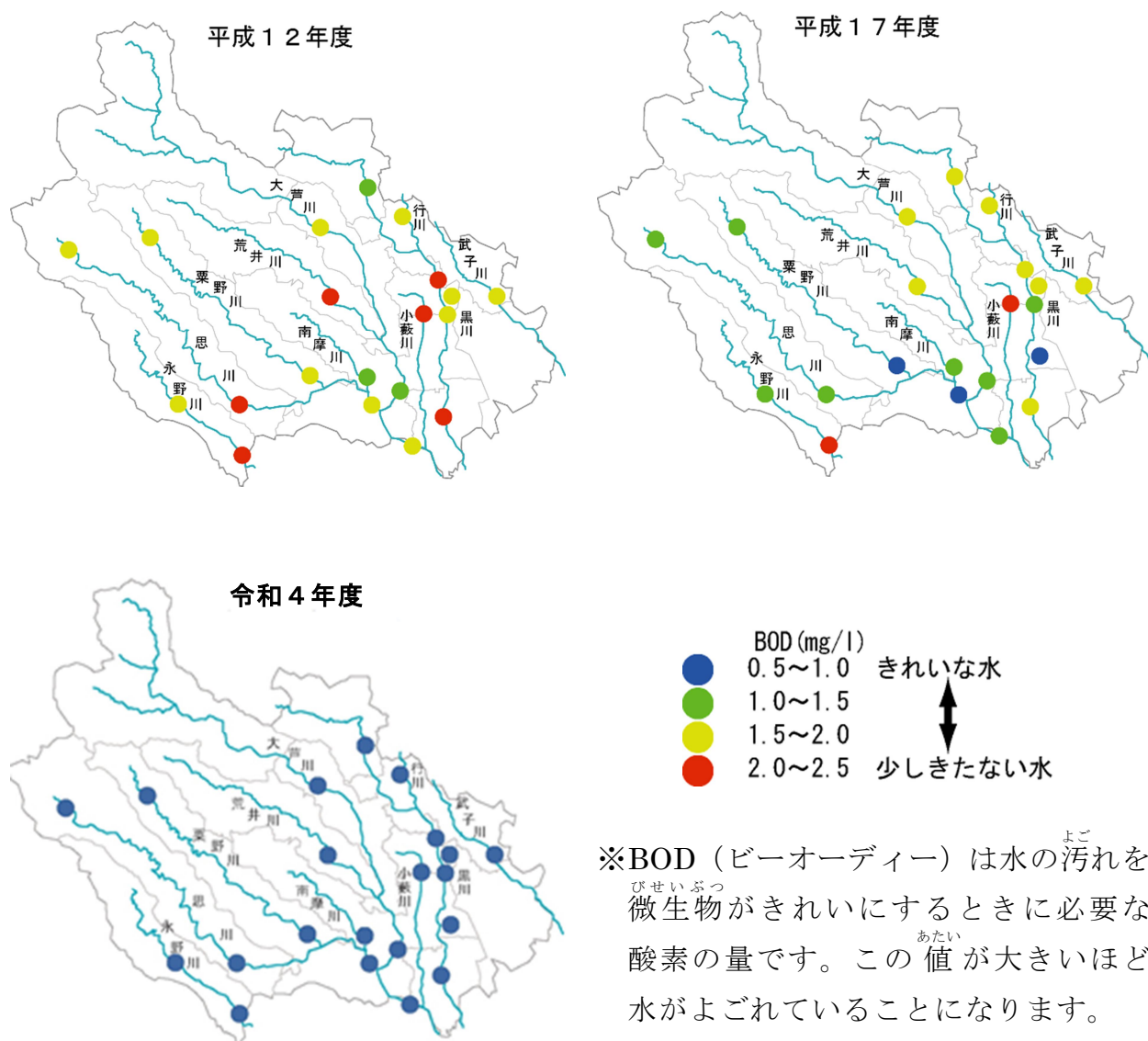


葉っぱなどから植物の水分が水蒸気になって外に出ていくことを「蒸散」というんだって！

②鹿沼市の川のように

わたしたちに身近な水のひとつに、川の水があります。わたしたちの住む鹿沼市にもいろいろな川が流れていますが、水の汚れは
 どうなっているのでしょうか。

みんなの家の近くを流れている川の水の汚れは、どれくらいなの
 のでしょうか。



上の3つの図は、市内を流れる川の汚れを表しています。
 市内の川は、少しずつきれいになっていることがわかります。

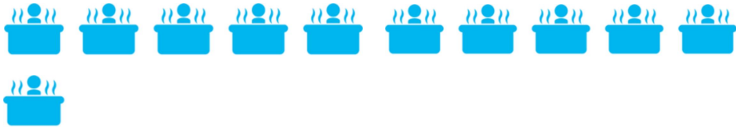
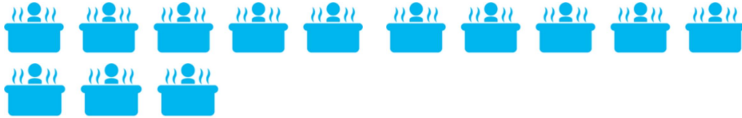
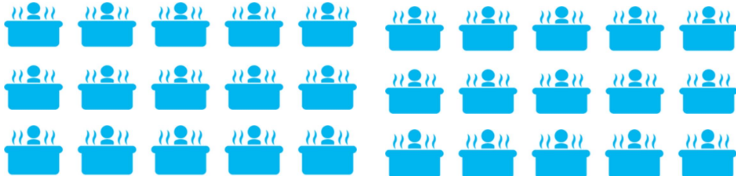
③なぜ、水は汚れるのだろう

川や池などの水の中にいる微生物は、汚れを食べて水をきれいにしています。しかし、微生物のはたらき以上の汚れが川などに入ると、水は汚れてしまいます。

水の汚れの原因は、台所や洗たく、お風呂などのわたしたちの生活から出る水（生活排水）や工場からの排水などがあります。



わたしたちの家庭から出た汚れのもとが川に流れてしまったとき、魚が住める状態にまで汚れをうすめるためには、たくさんのきれいな水が必要になります。

汚れのもと	魚が住むために必要なきれいな水
みそ汁 (お碗1杯) 	お風呂 (300 リットル) 約 4.7杯分 
牛 乳 (コップ1杯) 	お風呂 (300 リットル) 約 11杯分 
マヨネーズ (大さじ1杯) 	お風呂 (300 リットル) 約 13杯分 
てんぷら油 (20 ミリリットル) 	お風呂 (300 リットル) 約 30杯分 

現在、鹿沼市の西北部を流れる大芦川では、増えすぎた川遊び客によるごみのポイ捨てや騒音などの観光公害が深刻化しています。

豊かな自然に触れ、楽しむことは素晴らしいことですが、バーベキューや花火などで川を汚したり、そこで暮らす人たちに迷惑をかけたりすることは、絶対に許されないことです。

そこで、鹿沼市は、令和5年12月に大芦川の一部でバーベキューや花火などを禁止するルールをつくりました。

皆さんも、「川遊びのときにはしてはいけないこと」、「美しい川を守るためにできること」を考えてみましょう。



混み合う道路



人であふれる川原



使ったまま放り出されたコンロ



捨てられた折りたたみ机

○ 鹿沼市の取り組み

- ・ 清掃活動やパトロールをしました。
- ・ ごみのポイ捨て防止のためのチラシや看板を作りました。
- ・ エコライフフェア in 西大芦（ごみ拾い大会）を開催しました。